

## 藪浦政務官スピーチ

ドーブルィ・デーニ（ウクライナ語で「こんにちは」）

議長、  
ご列席の皆様、

本日は、ウクライナのための国際支援会議において、日本の立場を表明する機会を頂けたことに感謝の意を表します。また、この意義深い国際会議開催のために尽力されたウクライナ政府及びEUの全ての関係者に敬意を表します。

今から25年余り前、ベルリンの壁が崩れ、冷戦が終結し、新生ウクライナは国家としての歩みを始めました。

それから月日が経ち、今ウクライナから聞こえてくるのは、戦闘のニュースばかりです。私たちがこれまで大切に思ってきた価値、特に法の支配、主権、領土の一体性が侵され、力を背景とする現状変更の試みがなされています。日本が位置するアジアにおいても、こうした脅威が存在します。ウクライナをめぐる事態は、国際社会の基本的なルールを揺るがすものであり、欧州のみの問題ではなく、アジアを含む国際社会全体にとって極めて重要な問題です。

しかし、ウクライナに平和が訪れ、安定し、繁栄する国になるため、何ができるでしょうか。第一に、国際社会が団結し、全ての当事者が2月12日のミンスク合意を完全に履行することを確保しなければなりません。ウクライナ東部では、停戦合意後も局地的に砲撃・戦闘が継続し、情勢は依然不安定です。重火器の撤収について、OSCEによる客観的な検証が完全に確保されなければなりません。

第二に、ウクライナの国家と社会を強化しなければなりません。強靱性(resilience)があり、持続性(sustainability)がある国になるためには、大胆で包括的な改革が欠かせません。汚職対策、司法改革、国民統合の促進を含む改革なしにウクライナの安定や繁栄を確保することはできません。

議長,

日本は、ウクライナの平和に対する貢献と、国づくりに対する支援を行ってまいります。

まず、平和に対する貢献として、先般OSCE特別監視団の増員のために新たな財政支援を行ないました。日本としては、今後更に支援を強化してまいります。また、このような困難な状況下で任務に当たっているOSCEの全ての関係者に敬意を表します。

議長,

日本はウクライナの国づくりを後押しするため、国別では最大規模となる約18.4億ドルの支援を着実に実施しています。

第一に、経済状況の改善を目的として、2014年、約11億ドルの下水処理場改修事業や1億ドルの財政支援を含む最大約15億ドルの支援パッケージを表明しました。また、本年には3億ドルの追加的な財政支援を表明したほか、医療機材などの供与を決定しました。さらに、2月に署名された日・ウクライナ投資協定は、ウクライナの成長に欠かせない外国からの投資を促進するものであり、投資環境の一層の整備を期待します。

第二に、日本は経済・財政、ガバナンス等の分野における更なる日本人専門家のウクライナへの派遣を検討しています。すでに、民主主義の回復を目的として、選挙監視要員の派遣や、ガバナンス分野におけるJICAの技術協力を通じた民主化支援を行っており、今月ウクライナ最高会議の議員団6名を訪日招へいしました。また、3月には、ウクライナ最高会議の司法政策担当議員を訪日招へいしました。日本の経験がウクライナの司法改革に資することを期待しています。

第三に、国内の対話と統合の促進を目的として、国内避難民支援、東部復興支援を国際機関と協力して実施しています。

議長,

日本は次期G7議長国として、G7をはじめとする有志国(like-minded countries)と連携し、平和的・外交的解決に向けて一層積極的に関与・支援していきます。

本日の会合によって、先般IMF理事会が承認した新経済改革プログラムを含む改革の早期実現に向けた具体的道程とウクライナ政府のコミットメントが示され、国際社会が一致してウクライナの改革努力を支援していくというメッセージが発信されることを期待します。ウクライナに一日も早く平和と安定、繁栄が訪れることを祈念します。

ご清聴ありがとうございました。

チャーキュ（ウクライナ語で「ありがとうございました」）